

1 年 生活単元学習「外国に親しもう」 平成 30 年 10 月

単元について

新学習指導要領の中に外国語が位置づけられており、生徒の中には英語の学習を楽しみにしているものがある。本校中学部においては教科としての外国語の時間を時間割に設定していないので、合わせた授業の中で取り組みたい。本単元では、「外国語科」「職業・家庭科」「社会科」のこの3つの教科を合わせて指導することとした。本学級の生徒の外国語科への興味関心は様々なため、画一的に資質・能力を高めることは難しい。そのため、「色」「曜日」「外国の行事」などのモチーフを、タブレットの活用など多様で基礎的な導入の部分を経験することで、生徒一人一人が自分なりに経験し場面によって関心を持つことで、自ら学ぼうという意識が育ち、自発的に学習に取り組む姿が見られることを期待している。

単元の目標

【外国語科】

- ・知っている英単語の数を増やしていく。
- ・英語を用いて簡単な対話を行うことができる。
- ・英語をもっと知りたいという興味関心を高めて学習に取り組むことができる。
- ・外国人への苦手意識をもたず、会話をしたいという気持ちをもつことができる。

【職業・家庭科】

- ・タブレット端末の使い方を知る。
- ・自分から必要時にタブレット端末を利用する。

【社会科】

- ・外国（イギリス）の文化や生活を知る。
- ・外国の文化や生活に興味関心をもつ。

単元計画

○次	時/日	学習活動	指導内容(学習指導要領から)
1次	1時間	英語での色と名称の質問に、英語で答える。	音声聞いて真似る。中-外-(1)-ア-(ア) 身近な事物の様子や状態を表現する。中-外-(3)-イ-(イ)
2次	1時間	英語を用いて、お互いに曜日を質問し答える。	英語で用件を伝える。中-外-(1)-ア-(イ) 簡単な質問に英語で応じる。中-外-(3)-ウ-(ウ)

3次	1時間	簡単な英語を用いて挨拶を行う。	挨拶に応じる。中-外-(1)-ア-(ウ) 簡単な挨拶をし合う。中-外-(3)-ウ-(ア)
4次	1時間	タブレット端末を用いて、知りたいことを調べる。	簡単な指示に応じる。中-外-(3)-ア-(イ) 情報機器の扱いに慣れる。中-職家-2-職業-B-ア
5次	1時間	タブレット端末をも用いて、イギリスの文化や風習を調べる。	外国の文化風習を知る。中-社-1-カ-(ア)-ア 簡単な質問に英語で応じる。中-外-(3)-ウ-(ウ)

単元の個人目標及び本時の目標（抜粋）

生徒	単元の個人目標	本時の個人目標	3つの柱
A生徒	①ペアで英語のやりとりができる。(外国語科-中-1)	①英語で質問や解答のやり取りをすることができる。(中-外国語科-(3)-ウ-(ウ))	ア
	②指示されたサイトを開き、操作することができる。(職業・家庭科-中-1)	②指示されたサイトを開き、操作することができる。(中-職業・家庭科-2-B-ア)	イ
	③日本とイギリスの代表的な食べ物について調べることができる。(社会科-中-1)	別時の授業で本時の目標としてあげる。	
B生徒	①音声を聞いて発音することができる。(外国語科-中-1)	①タブレットから出る音声を発音することができる。	ア
	②提示された画像からイギリスに関連する画像を選ぶことができる。(社会科-中-1)	別時の授業で本時の目標としてあげる。	
	③指示されたサイトを開き、操作することができる。(職業・家庭科-中-1)	②指示されたサイトを開き、操作することができる。	イ

育成を目指す資質・能力の3つの柱

ア 何を理解しているのか、何ができるか(「知識・技能」の習得)

イ 理解していること・できることをどう使うか(「思考力・判断力・表現力」の育成)

ウ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

学習の様子



友達とペアになって、問題を出したり、答えたりしました。



身近なものは英語でなんて言うのかな？ iPadで調べました。



本時の展開

時間	学習活動	指導・支援	
		L1	L2・L3
1:20	①日直の号令に合わせて、始まりの挨拶を行う。	①起立の後、日直が周りの生徒の様子を確認したか把握する。	①起立して気をつけの姿勢がとれているか、挨拶の声を出しているか確認する。
1:25	②電子黒板を見ながら、曜日の歌を歌う。	②歌うことで曜日を覚えることを伝える。	②自信をもって大きな声で歌えるよう、生徒の傍で一緒に歌う。
1:30	③前時の復習をする。 ・Hello! ・How are you? ・My name is ○○. ・Thank you.	③名前を言うときは、姓と名が入れ替わることを確認する。	③発音の参考になるよう、生徒と一緒に挨拶をする。
1:32	④今日の学習内容を知る。 ・ペアで「What is this?」のやりとりをする。	④電子黒板に学習内容を提示する。	④生徒の様子を観察し、学習内容の理解が難しい生徒には、事前に準備したプリントを提示して説明をする。

<p>1:35</p>	<p>・分からない物の名前をタブレット端末を用いて調べる。</p> <p>⑤友だちと「What is this?」「○○」のやりとりをする。</p> <p>・食べ物</p> <p>・色</p> <p>・動物</p>	<p>・提示内容の理解が難しい生徒には、手元に電子黒板の内容を印刷したプリントを準備する。</p> <p>⑤対話のやり方を思い出せるように、L2とやりとりの模範を示す。</p> <p>・相手の顔を見ながらやりとりをするよう伝える。</p>	<p>⑤L1とやりとりの模範を示す。</p> <p>生徒同士の対話の様子を観察する。</p> <p>・対話が難しい生徒には、対話の手順を提示して活動が進められるようにする。</p>
<p>1:40</p>	<p>⑥答えが分からないときの言い方を知る。</p>	<p>⑥習っていないものを提示することで困った場面を設定し、その言葉の必要性を高める。</p>	<p>⑥新しい言葉を使おうとする様子が見られるか観察する。</p>
<p>1:45</p>	<p>「I don't know.」</p> <p>⑦教師が提示した物の英語の名前をタブレット端末を用いて翻訳する。</p> <p style="text-align: center;">主体的</p> <p>⑧翻訳した英単語の発音練習をする。</p> <p>⑨自分が知りたい物の名前をタブレット端末を用いて翻訳する。</p> <p style="text-align: center;">深い</p> <p>⑩翻訳した英単語の発音練習をする。</p>	<p>⑦分かりやすいように端末の画面を電子黒板に表示して、操作の説明をする。</p> <p>・操作時の約束を伝える。</p> <p>⑧タップ1回で音声を流すことができることを伝える。</p> <p>⑨調べたいものや発音を記入できるようプリントを用意する。</p> <p>・どのような様子で調べているかを把握する。</p> <p>⑩タップ1回で音声を流すことができることを伝える。</p> <p>・使用後のタブレットを回収する。</p>	<p>⑦タブレット操作に戸惑っている生徒には手順カードを提示する。</p> <p>⑧手順カードを必要に応じて提示する。</p> <p>⑨翻訳が聴き取れず発音できない生徒は、カタカナ表記をする。</p> <p>⑩手順カードを必要に応じて提示する。</p>
<p>2:05</p>	<p>⑪ペアでやりとりをする</p> <p>○「What is this?」</p> <p>◇「○○」or 「I don't know.」○「○○」</p> <p style="text-align: center;">対話的</p> <p>⑫ペアで前に出て発表する。</p> <p>⑬今日の活動の振り返りを行う。</p> <p>・分からない言葉を翻訳する</p> <p>・「I don't know.」の使い方</p>	<p>⑪L2とやりとりの模範を示す。</p> <p>・電子黒板にフローチャートを提示しておく。</p> <p>・取り組みの様子を観察し評価をする。</p> <p>⑫全員が発表することを伝えておく。</p> <p>⑬タブレット端末で翻訳ができることを伝える。</p> <p>・分からないときの答え方を確認する。</p>	<p>⑪L1とやりとりの模範を示す。</p> <p>・スムーズにやりとりができるように、必要な生徒には手元にフローチャートを準備する。</p> <p>・対話の様子を観察し評価をする。</p> <p>⑫自発的に活動できるよう、カタカナ表記ややりとりの順番を示す。</p> <p>⑬一緒に発音をする。</p> <p>⑭一緒に挨拶をする。</p>

⑭日直の号令に合わせて、終わりの挨拶をする。	⑭日直に号令を促す。	
------------------------	------------	--

本時の目標の評価（抜粋）

	本時の目標	評価基準	評価	次回に向けて
A 生徒	①英語で質問や解答のやり取りをする。(外国語)	◎支援なく友達とやりとりをすることができる。 ○教師の促しでやりとりすることができる。 △教師と一緒にやりとりすることができる。	△	評価基準が高かったので知らないような単語を準備する
	②指示されたサイトを開き、操作する。(職業・家庭)	◎1人で操作することができる。 ○教師の促しで操作することができる。 △教師と一緒に操作することができる。	◎	
B 生徒	①タブレットから出る音声を聞いて発音する。(外国語)	◎音声を聞いて発音することができる。 ○単語カードを見て発音することができる。 △教師と一緒に発音することができる。	△	基準を下げる 書いたものを読む リズムをつけて発音する
	②指示されたサイトを開き、操作する。(職業・家庭)	◎1人で操作することができる。 ○教師の促しで操作することができる。 △教師と一緒に操作することができる。	◎	

単元を終えて

学部での検討（今後はどうつなげるか）

- ・文章での質問とそれに伴う文章での答えは生徒にとってはレベルが高いので、単語で答えることができるようなやりとりを含む授業展開を続けていく。授業内容の量が多かったので主体的対話的に授業を行える適量を考えたい。
- ・外国語を中心に置いた合わせた授業において、生徒の意欲と理解の差が大きいため、学部全体で理解度に応じたクラスを作って行った方が学習効果は大きい。生徒の理解や意欲に応じた学部全体でのグループ編成ができればよい。

全校授業検討会で出された意見等

- ・生活に英語をどう生かしていくのか、授業の先へつなげる工夫がもう少し必要だった。

- ・AL T, 佐大の留学生他, ゲーム等交えながら実際の英語に触れる経験があってもいい。また, 英語圏の行事やイベントにむけて内容を組めば合わせた指導の中でできる。
- ・授業の中に自立活動の目標の記述がないが, 生徒間のやりとりをするのであれば, 自立活動(コミュニケーション, 人間関係の形成を中心に)の視点は必要となるのではないか。
- ・評価基準自体が高かった生徒もあった。目標・評価基準の設定に課題があった。全体的にもっと具体的な評価基準の設定にした方がよい。
- ・英語・社会・理科など, 合わせた指導の中で行う教科については, 小・中・高の生活単元学習でつなげていった方がよい。学年や学部で系統性を持たせないと, そのときだけで学習が終わるので, 教科部会のような縦割りの話し合いで, 小・中・高のつながりをもたせるべき。
- ・外国語については, 教科の専門性が不可欠(学部が上がれば上がるほど)。選定した教科書を, どのように授業で活用していくかを検討する必要がある。

授業検討会を受けて改善した点

- ・評価基準の設定に課題があったので, より生徒の実態を把握し目標設定をするために, R1年度は数学科においてアセスメントシートを作成し活用した。
- ・教科の指導略案に目標設定をしてはいないが, 教師の配慮事項として個別の指導計画にある自立活動の内容に沿った支援・手立てを記述し, 自立活動も意識した授業作りに取り組んだ。

中学部数学Cグループ 数学科「数と計算」 令和元年6月

単元について

年間指導計画の検討

数学の年間指導計画の検討において, 昨年度までの学習形態を見直した。生徒の目標達成につながるのではないかと考え, 内容の習熟度・実態を考慮した縦割りグループ(3グループ)を編成することとした。年間指導計画を作成にするにあたっては, 数学における生徒の実態を, 学習指導要領に示されている4つの分野「A 数と計算」「B 図形」「C 変化と関係」「D データの活用」ごとに把握した上で, 個人の目標を設定し, それを達成するために必要な内容を検討しながら, 単元の構成を考えた。その結果, 4つの単元のうち, 「A 数と計算」を他の分野より多く取り扱う必要性があり, それをもとに単元ごとの時数を設定した。また, 単元の配列については, 本単元「A 数と計算」については, まず身に付けてほしい力として優先度が高いと考え, 年度の初めに単元設定することとした。

研究授業における単元の内容設定までの検討

本グループの数学における実態については、担任からの情報やレディネステストの結果(数詞を唱えることができる、10～20までの数字を正しく書き表すことができる、10までの数において物の個数を比べ同等や多少が分かる)を参考にした。学習指導要領の概ね小学部2段階と3段階の目標及び内容を取り扱いながら、個別の目標を達成することが適切であると考えた。20までの数唱は全員ができ、一桁の加法については、ほとんどの生徒がそれぞれのやり方で答えを出すことができる。ところが、生活場面では、容器の中のお菓子の数を正確に数えられなかったり、決まった数のまとまりにできなかつたりする姿が見られる。これは、机上の計算や、音声としての数唱ができて、生活に結びつく数概念の形成や、物の数の正確な数え方や操作にまで結びついていないということを示している。また、数を10のまとまりとして数えるやり方や、1つの数を2つに分けたり、2つの数を1つにまとめたりして数を構成的に見ることについては、学習経験も少なく、生徒の今後の生活や学習(加法・減法についての理解の素地)を踏まえると、身に付けてほしい見方・考え方であると考えた。

以上のことから、本単元では、「具体物を扱った操作的活動を通して、10のまとまりに着目した数の数え方や表し方について理解する力」、「1つの数を合成や分解により構成的にみる力」を身につけさせたいと考えた。そして、学習を通して数の構成についての感覚を養い、それを生活や学習で生かすことを目指したいと考えた。

単元の目標

【数学科】

- 具体物を操作しながら、10のまとまりを作って数を正しく数えたり表したりすることができる。
- 具体物を操作しながら、数を2つに分けたり、1つにまとめたりして、数の構成について考えることができる。

単元計画

次	時	日時	学習活動	指導内容
1	1	5/8	レディネステスト	
	3		小単元1「数を正しく数えよう」	小-算2段階 A(ア)
		5/22	・10がいくつ	小-算3段階 A(ア)
		5/29	・10がいくつと端数	
	6/5	・10がいくつと端数の表し方		
2	4		小単元2「数を分けたり合わせたりしよう」	小-算2段階 A(ア)
		6/12	・数を2つに分けよう…①(数の分解)	
		6/19	・数を2つに分けよう…②(数の分解)	
		6/26	・2つの数を合わせよう…①(数の合成) 本時	
	7/3	・2つの数を合わせよう…②(数の合成)		
3	2		小単元3「ゲームで遊ぼう」	小-算2段階 A(ア)
		7/10	・ゲーム「10がいくつ」「10がいくつと端数」	小-算2段階 A(イ)
	7/17	・ゲーム「数を分けたり合わせたりしよう」	小-算3段階 A(ア)	
1	7/24	評価テスト		

単元の個人目標及び本時の目標 (抜粋)

単元の個人目標(学部一段階)

生徒名	個人目標
C生徒	① 10のまとまりの個数と端数から数を正しく表すことができる。(小2-ア)
	② 1つの数を2つに分けたり, 2つの数を1つの数に合わせたりしたときの数を正しく表すことができる。(小2-ア)
D生徒	① 10のまとまりを正しく作ることができる。(小2-ア)
	② 教師と一緒に, 1つの数を2つに分けたり, 2つの数を1つの数に合わせたりしたときの数を正しく表すことができる。(小2-ア)

本時の個人目標

生徒名	個人目標	3つの柱
C生徒	① 2つの数を合わせた時の数を正しく答えることができる。(小2-ア)	ア
	② 教師の言葉かけで、具体物を操作して出題したり解答したりすることができる。(小2-ア)	ウ
D生徒	① 合わせた時の数を声に出して正しく数えることができる。(小2-ア)	ア
	② 教師の言葉かけで、具体物を操作して問題を出したり、問題に答えたりすることができる。(小2-ア)	ウ

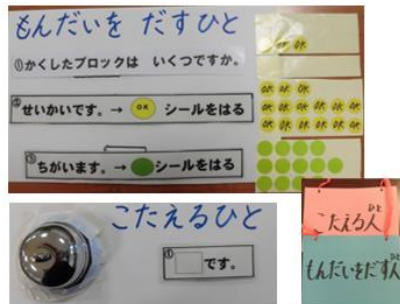
育成を目指す資質・能力の3つの柱

ア 何を理解しているのか、何ができるか(「知識・技能」の習得)

イ 理解していること・できることをどう使うか(「思考力・判断力・表現力」の育成)

ウ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

学習の様子



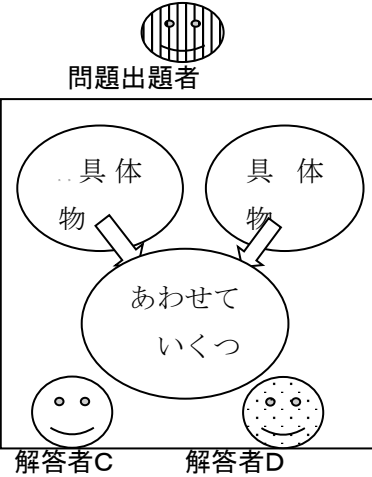
数える物として、お菓子を使いました。ゲームの仕方が分かりやすいようにいろいろな補助具を準備しました。



ゲームの仕方をみんなで確認した後、実際にお菓子を使って、「合わせて何個ゲーム」を行いました。



本時の展開

時間	学習活動	指導・支援	
		L1	L2
10:10	<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 本時のめあてと流れを知る。</p> <p>3 ゲームのやり方を知る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正し、元気よくあいさつをするように促す。 めあてや学習の流れを説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて 「あわせていくつ」ゲームをしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 楽しくゲームに参加し、合わせるという意味が理解しやすいように具体物を準備する。 ゲームの進め方、判定の仕方、シールの貼り方について、L2と生徒1名がモデリングを行い、L1は適宜分かりやすく説明を加える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①出題者と解答者Cでゲームをする。</p> <p>出題者：「合わせていくつですか。」</p> <p>解答者C：分かったらベルを鳴らす。「○です。」</p> <p>教師：「確かめてみます」</p> <p>全員：「1， 2・・・（数える）」</p> <p>出題者（正解の時）</p> <p style="padding-left: 20px;">：「正解です」OKシールを貼る</p> <p>出題者（不正解の時）</p> <p style="padding-left: 20px;">：「ちがいます」黄緑色のシールを貼る</p> <p>②次は、出題者と解答者Dでゲームをする。</p> <p>※以下同じ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> やりとりの言葉はゲームボードに貼っておく。 ゲーム①の終了はタイマーで知らせることを伝える。 ゲーム①のメンバーと活動場所を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正すよう言葉かけをする。 注目する箇所を指さす。 L1の話に注目するように言葉かけをする。 出題者としてゲームのやり方を演示する。

10:20	4 ゲーム①をする。(10分間) A・B・Cチーム(教師A) D・Eチーム(教師B)	<ul style="list-style-type: none"> ・3人のグループに入り, ゲームがスムーズに進行するように, 答え合わせをしたり, やりとりの言葉を提示したり, 友だちにシールを貼るように促したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人のグループに入り, ゲームがスムーズに進行するようにL1と同じ支援を行う。
10:30	5 ゲーム②をする。(10分間) A・D・Cチーム(教師A) B・Eチーム(教師B)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子を観察しながら, 具体物の数を増やしたり減らしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子を観察しながら, 具体物の数を増やしたり減らしたりする。
10:40	6 学習を振り返って, 分かったことをワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・出だしの言葉「2つを合わせると…」を伝える。 ・言葉カード(多くなった・少なくなった・変わらなかった)を提示し, この中から選択するように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒントの言葉を出して, 次につながる言葉を考えやすいようにする。
	7 次の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は, 「あわせていくつゲーム②」をすることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に注目できるように言葉をかける。
11:00	8 あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> ・日直に号令を促す。 	

本時の個人目標及び単元の個人目標の評価 (抜粋)

本時の個人目標の評価

生徒名	個人目標	評価	次回に向けて
C生徒	①2つの数を合わせた時の数を正しく答えることができる。	○	教師の言葉かけで2つの数を合わせて, 指さしをしながら正しく数え答えることができた。
	②教師の言葉かけで, 具体物を操作して出題したり解答したりすることができる。	○	ゲームの流れは理解しているようだった。問題を出すときは一つずつ声に出して数えてお皿に入れることができた。
D生徒	①合わせた時の数を声に出して正しく数えることができる。	○	指さしをしながら声に出して正しく数えることができた。
	②教師の言葉かけで, 具体物を操作して問題を出したり, 問題に答えたりすることができる。	○	ゲームの流れを徐々に理解し, やりとりの言葉も促しがあればスムーズに言うことができた。解答者のときは, 毎回必ず大きなお皿の一つずつ声に出して数えながら合わせていたので, 間違えることがなかった。

単元の個人目標の評価

生徒名	個人目標	評価	次回に向けて
C生徒	①2つの数を合わせた時の数を正しく答えることができる。	○	教師の言葉かけで2つの数を合わせて、指さしをしながら正しく数え答えることができた。
	②教師の言葉かけで、具体物を操作して出題したり解答したりすることができる。	○	ゲームの流れは理解しているようだった。問題を出すときは一つずつ声に出して数えてお皿に入れることができた。
D生徒	①合わせた時の数を声に出して正しく数えることができる。	○	指さしをしながら声に出して正しく数えることができた。
	②教師の言葉かけで、具体物を操作して問題を出したり、問題に答えたりすることができる。	○	ゲームの流れを徐々に理解し、やりとりの言葉も促しがあればスムーズに言うことができた。 解答者のときは、毎回必ず大きなお皿の一つずつ声に出して数えながら合わせていたので、間違えることがなかった。

単元を終えて

生徒が本単元で身につけた力については、今後も数学の学習を通して伸ばしていきながら、日常生活や生活単元学習、作業学習の中でも10のまとまりを作って正しく数える、数を2つに分ける、2つのものをまとめた数を数えるといった活動を意図的に仕組んでいって、汎化していくことが必要だと考えている。

「主体的、対話的で深い学び」につながる工夫として、本時の授業展開のように「身近にある具体物を用いて操作をしながら学習を行う」ことをこれからも継続して行い、生徒が興味・関心をもって主体的に活動できるようにしていきたい。また、発語が少ない生徒のために、発表の仕方ややりとりの仕方を明確に提示して、教師の促しや支援を受けながら生徒同士のやりとりがある学習を対話的な活動と捉え、これからも授業展開をしていきたいと思う。さらに、数学の学習を通して、問題を解決したときのやり方や考え方、分かったことを(生徒自身の気づきを認めながら)整理していくことで、深い学びの獲得へと近づけていきたいと思う。

本グループだけでなく、他の学習グループの単元評価や年間指導計画の見直しを踏まえて、中学部の数学科の学習の在り方について学部で検討し、次年度の年間指導計画へとつなげていきたい。